

目次

<解説>

- 1. 秩序ある都市開発のために ……8
—新・都市計画法のあらまし—
- 2. 大規模草地改良事業の成果 ……12
- 3. 天草海中公園の構想 ……29
- 4. 県内労働力をどう確保するか ……32

□ここに人あり

点字は生きている・森畑正士さん ……25

★県政サロン★

これからの住宅 ……15

欧米をめぐるつて・河端 脩 ……26

□県政なんでも相談室 □

示談の方法はどうしたらよいか ……14

☆話のくずかご

熊本の木と花と・村山 豪 ……35

□犬害をなくすために—熊本県犬取締条例とは…34

—随想—

大野 瑛子・滝本 悠雅・深沢 秀雄

★★グラビヤページ★★

○これからの住い

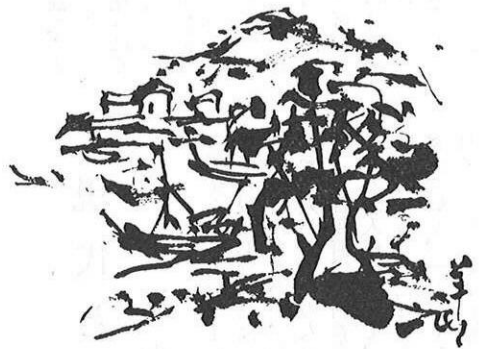
○産山村の養蚕

○ある青春・ほか

★センターカラー ……天草海中景観

★表紙 ……内大臣溪谷

★本文目次カット・宮嶋羊郎



県南を走る産業・観光の動脈

「ようこそ人吉へ 人吉へ33K」子守り姿の看板がほほえんでいた。ルート219の熊本県と宮崎県の境は、標高約600メートルの山の中にあった。民家が約10戸。鶏のときの声が、高地の冷気をふるわせていた。

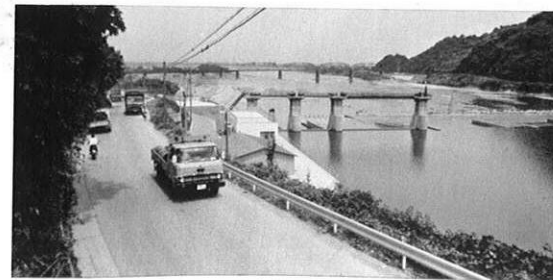
県境近くの横谷展望所から見る球磨盆地は、山々の底に緑色にかすみ、その中央を貫いてルート219が白く光っていた。

湯前町から人吉市へ。点在する醸造元。球磨焼酎の豊潤な匂いがただよ。木材を満載したトラックが、轟音をたてて走っていく。

人吉大橋。織月城の苔むした石垣の影を映して流れる球磨川。人吉市を抜けて八代市まで、昔は球磨川が交通の主力であった。明治41年、今の肥薩線がそれにかわった。そして現在、新設された沿岸道路・ルート219が近代輸送の大きな役割になっている。

山峡を縫って眼下を走る表情豊かな球磨川の流れる中を4隻の川下りの舟が走っていた。時折り、列車が山の中から現われ、また山の中に吸い込まれていた。車は、素晴らしい景観の続く沿岸をすべるように走っていく。

〈ルート219のメモ〉熊本市を起点に宮崎市へ至る。主な経過地は宇土市、八代市、人吉市、湯前町。県内の総延長は約131.9K(うちルート3との重用区間39.4K)。熊本市と県南部を結ぶ産業・観光の重要な横断幹線道路である。



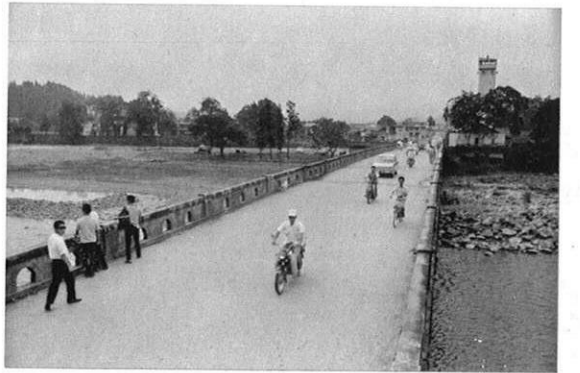
▲やがて八代へ…八代平野土地改良・工業用水のための新造排堰が見えはじめた。



▲熊本県と宮崎県の県境になる横谷峠はすでに晩秋の気配がただよっていた。



▲多良木町の真ん中を突走る…町の産業を反映してか、木材を積んだトラックが目立った。



▲人吉城跡を右手に見て清流球磨川を渡る時、吹上げる川風が窓に吹き込む。



▲球磨川沿岸道路で…崖くずれ防止の作業現場に出あった。道路維持管理もおこたらない。